

2017年度 第4回運用容量検討会 議事録

日 時：2018年2月9日（金） 13:30～14:20

場 所：電力広域的運営推進機関（豊洲ビル）会議室B及び広域本番会議室A（TV会議）

出席者：

- 坂原 淳史（北海道電力株式会社 流通本部工務部広域システムグループグループリーダー）
- 掛田 勝宏（代理出席）（東北電力株式会社 電力ネットワーク本部電力システム部給電グループ主任）
- 田中 泰生（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統運用計画グループグループマネージャー）
- 甲斐 静治（中部電力株式会社 電力ネットワークカンパニー系統運用部系統技術グループ課長）
- 川島 渉（北陸電力株式会社 電力流通部系統運用チーム統括課長）
- 高垣 恵孝（関西電力株式会社 電力流通事業本部給電計画グループチーフマネージャー）
- 杉山 弘幸（中国電力株式会社 送配電カンパニー系統技術グループマネージャー）
- 長谷川 隆（四国電力株式会社 電力輸送本部系統運用部給電グループリーダー）
- 高崎 真司（九州電力株式会社 送配電カンパニー電力輸送本部電力品質グループ長）
- 飯塚 俊夫（電源開発株式会社 流通システム部変電・系統技術室総括マネージャー）

事務局

- 竹内 浩（電力広域的運営推進機関 運用部長）
- 大川 修司（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループマネージャー）
- 神田 光章（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループマネージャー）
- 松尾 工（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループ）
- 藤田 利和（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループ）
- 堀川 達弘（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）
- 黒川 剛志（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）
- 中嶋 駿介（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）

配布資料

- 資料1-1：運用容量算出における今年度の見直し事項
- 資料1-2：2018～2027年度の連系線の運用容量（年間計画・長期計画）
- 資料1-3：別冊 各連系線の運用容量算出方法・結果
- 資料1-4：設備停止時の運用容量について
- 資料1-5：ウェブサイト公表イメージ
- 資料1-6-1：運用容量を休日相当として扱う日について～2018年度・2019年度～
- 資料1-6-2：2018年度・2019年度 連系線の運用にかかわる平日・休日カレンダー
- 資料2-1：三重東近江線の運用容量（関西向）の算出条件の見直し検討について

議題 1：運用容量算出結果について

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ① 「運用容量算出における今年度の見直し事項」について
事務局から資料 1-1 の説明後、議論を行った。
- ：この資料の位置付けは何か。
 - ：この資料は資料 1-2 の参考資料として公表するもので、2018 年度以降の運用容量の算出にあたり、昨年の算出から考え方を変えた点をお知らせするための資料である。
- ② 「2018～2027 年度の連系線の運用容量（年間計画・長期計画）」について
事務局から資料 1-2 の説明後、議論を行った。
- ：今年度の運用容量算出から、実運用で使用している、北陸関西間連系線潮流と中部北陸間連系設備潮流の合計潮流である、北陸フェンスを新たに追加した。また、特殊日の運用容量も追加した。
 - ：P 1 2 の長期計画について、業務規程で算定断面は「最大需要時の値」と定められている。そのため、算出断面を細分化（30 分ごと）している中国九州間連系線の中国向と中部関西間連系線の関西向については、年間計画で算定している昼間帯の値ではなく、最大需要時の細分化した値、具体的には 8 月の 15 時の需要における値を長期計画の値として記載している。
- ③ 「別冊 各連系線の運用容量算出方法・結果」について
事務局から資料 1-3 の説明後、議論を行った。
- ：2019 年 3 月運開予定の北海道本州間連系設備に関して何らかの制約が生じることになるのか。
 - ：制約は発生するが現在検討中であるため、整理ができ次第報告する。2018 年度上期中には運用に関する資料をまとめる予定である。
- ④ 「設備停止時の運用容量」について
事務局から資料 1-4 の説明後、議論を行った。
- ：P 3 6 に南福光交流連系を行うこと理由として、運用容量の大幅な低下を回避とあるが、大幅な低下とはどの程度なのか。
 - ：現状、平常時においては関西向が最大 181 万 kW、北陸向が 130 万 kW または 60 万 kW であるが、1 回線作業時においては関西向が 50 万 kW または 70 万 kW、北陸向が数万 kW 程度まで低下する。ただし、南福光交流連系時は、北陸送電方向（中部向）は最大 191 万 kW、北陸受電方向（北陸向）は、130 万 kW または 60 万 kW となるため、資料のような記載とした。

⑤ 「ウェブサイト公表イメージ」について

事務局から資料1-5の説明後、議論を行った。

・意見等なし。

⑥ 「2018年度・2019年度連系線運用にかかわる平日・休日カレンダー」について

事務局から資料1-6-1、1-6-2の説明後、議論を行った。

○：2019年度の休日について、天皇陛下の譲位により新たに天皇に即位される日（2019年5月1日）が祝日となる可能性もあるようだが、その扱いや現在の天皇誕生日（12月23日）の扱いはどうなるのか。

●：現段階では正式に祝日などとは決まっていないため、正式に決定次第、見直し等を行う。

議題2：その他

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

① 「三重東近江線の運用容量（関西向）の算出条件の見直し検討」について

事務局から資料2-1の説明後、議論を行った。

●：P9のまとめで示されているとおり、三重東近江線の運用容量（関西向）の算出条件の見直し検討結果から、年間を通して昼間帯運用容量が増加する「(2) 三重東近江線の検討潮流の見直し」を採用する。

○：本対策は、中国九州間連系線の次に社会的影響が顕在化している中部関西間連系線の関西向に限った対策と考えて良いか。

●：運用容量の算出断面の考え方として、「連系線の混雑が見込まれる場合は30分毎に細分化する」ルールがある。この適用ルールを準用して中部関西間連系線の関西向に限ることにより。

以上